

# 町長から行政報告をします

※一部抜粋

## 平成25年度 予算編成関係

平成25年度予算編成は、昨年度に引続き町税をはじめとする自主財源が確保できず、国県からの財政支援に頼らざるを得ない厳しい状況の中での編成となりましたが、長期に渡り苦しい避難生活を余儀なくされている町民の皆さまの絆の維持、一日も早い暮らしの再建と「ふるさとみえの再生」に向け、浪江町復興計画に掲げる3つの基本方針ごとの重点取り組み事項と連動した予算編成としました。

●**すべての町民の暮らしの再建**  
「町民健康管理」「生活再建促進」「町外コミュニティ整備促進」を重点取組事項として、町民の放射線に関する各種検査や、県内外での交流会の開催、町外コミュニティの意向調査等の事業等を実施することとしています。

●**ふるさとみえの再生**  
「除染推進」「生活環境再生」「産業再生」を重点取組事項として、国の除染同意取付への事務協力、区域見直しに関わる防犯対策や初期緊急医療、水産物の経営再開を実現するための環境整備の概略設計を行う事業等を実施することとしています。

●**被災経験を次世代や日本に生かす**  
「子どもたちをつなぐ絆」「復興プログラム構築」を重点取組事項として、震災記録誌の発刊

や、震災によって離れ離れになった子どもたちの交流事業等に取組むこととしています。

これらに基づく、平成25年度一般会計予算の総額は、76億2,200万円となっております。一方、特別会計9事業の合計は、国保会計、介護保険会計が昨年を引き続き増加となったことで75億4,931万2千円となっております。

一般会計予算の内容は、歳入では、町税が税条例による減免等で2億3,167万5千円。地方交付税が減免による町税の減収補てんや震災復興特別交付税の増により37億5,068万4千円。繰入金、浪江町復旧・復興基金繰入金的大幅な増加もあり6億5,108万4千円。町債の借入れは、臨時財政対策債3億6,500万円となっております。

歳出では義務的経費が復興支援員報酬の増等により33億2,891万円。投資的経費が道路設計委託料や仮庁舎倉庫建設工事の増により1億1,435万9千円。その他の経費は、復興交付金基金積立金の増や浪江町防犯業務委託料・防災集団移転促進事業計画業務委託料等の増より41億7,873万1千円となっております。

## 衆議院議員総選挙

今回の選挙では、期日前投票所を二本松、福島などに合わせ

て6カ所設置し、当日投票所は二本松をはじめ4カ所に設置しました。また、選挙のお知らせを全有権者に配布し投票所の場所や受付時間の周知を図るとともに、仮設住宅から投票所までを結ぶバスを運行させるなどして、投票率の向上に努めました。投票率は50.7%、前回に比べ22.5ポイント下回りました。今回の選挙では、不在者投票者数が前回の選挙に比べ約5倍にのぼり、不在者投票制度の周知が一定の成果を得たものと思

## 双葉8町村、福島県と国との意見交換会等

2月17日に原子力被災自治体、福島県と国との意見交換会が行われ、国から根本復興大臣、茂木経済産業大臣、石原環境大臣ほか、県から佐藤知事ほか、避難地域12市町村長が出席しました。

国から「福島対応体制の抜本強化」、「福島復興・再生に向けた主な予算」などについて説明がされた後、国、県、市町村間で意見を交換しました。

町からは、「避難解除等区域復興再生計画の素案に中間貯蔵施設、最終処分場、減容化施設などの重要事項の記載がないこと」、「事業用資産の賠償申告書を簡略化すること」などへの意見を述べました。国からは、回答の回答がありました。

## 町外コミュニティの個別協議

2月7日に南相馬市役所で復興庁、県、南相馬市、浪江町、飯館村が出席しての町外コミュニティの個別協議を行いました。協議内容は、「受入自治体の都市計画、復興計画など町づくりにの方針との調整」、「避難者受入数の見込み」、「帰還時期見込みの想定」、「災害公営住宅の整備箇所、整備戸数」などです。

今後、意向調査結果を踏まえながら協議を続け、早期整備を進めます。

## 桑折町との災害公営住宅協定

桑折町では町営で災害公営住宅建設を進めています。この災害公営住宅には桑折町民だけでなく、浪江町民も受入れするということで、2月13日に「浪江町避難者支援のための災害公営住宅整備に関する協定書」を締結しました。

桑折町には、仮設住宅もあり213世帯、406人の浪江町民が現在入居中で、災害公営住宅は仮設住宅の隣接地に建設されます。1・4ヘクタールの土地に木造長屋建て(チェーンハウス)2階建て47戸を建設する計画となっております。

なお、入居に際しての詳細な事項は、今後覚書など別に取り交わす予定で桑折町と話を進めています。

## 避難指示区域の再編に伴う住民説明会の開催

避難指示区域の再編に伴う住民説明会を、昨年12月21日から26日までの間、3会場延べ6回にわたり開催しました。この中で行政区域長や町民の皆さまからさまざまな意見が提出されたことから、さらに検討を加えた後、1月23日開催の議会全員協議会に区域見直しの最終案を提示しました。

1月25日、「避難指示区域見直し」に係る浪江町の区域見直しの方針は、大字単位とし、「帰還困難区域」は13の大字、「居住制限区域」は10の大字、「避難指示解除準備区域」は10の大字に見直しすると原子力災害対策本部長に通知しました。

## 警戒区域への一時立入り

第6回目のマイカーによる一時立入りを、11月3日から12月14日まで計27回実施しました。また、バスによる一時立入りは、11月29日から12月2日まで計3回実施しました。

## 町民の健康管理

### 内部被ばく検査

ホールボディカウンタによる内部被ばく検査は、1月末現在、受検者11,557名、55.6%の方が検査を受け、内11,253名の方が預託実効線量1ミリシーベルト未満という結果となっております。

### 甲状腺検査

震災時18歳未満の方に對して行っている甲状腺検査は、1月末現在、受検者3,845名、内1,272名の方に嚢胞や結節が認められましたが、直ちに二次検査の必要なC判定の方はいませんでした。

また、昨年12月から40歳以下の方に對しても甲状腺検査を実施していますが、1月末現在147名の方が検査を受けています。

### 染色体検査

1月末から染色体検査による初期被ばく線量の推定を行っています。この検査は、当町と連携協定を結んでいる弘前大学によるもので、採血後の血液を培養し、染色体異常の頻度を数えることにより、被ばく線量を評価するものです。受検者は、希望のあった855名を予定しています。

### 医療費一部負担免除期間等

2月末まで免除になっていた国民健康保険、後期高齢者医療の窓口負担や介護保険の利用者負担は、免除期間の1年延長が決まり国民健康保険と後期高齢

## 災害給付金等の状況

災害弔慰金等の支給は、津波および地震により直接死亡された方が184名であり、うち支給対象者が171名となっております。2月末現在、申出受理件数・支払件数は170件です。

また、災害関連死に関する弔慰金は、現在、双葉地方災害弔慰金審査委員会において、関連死の可否について審査をしているところで、2月末現在、申出受理件数が302件、うち審査件数が262件、うち認定件数が254件、支払件数が248件です。

## 応急仮設住宅

南相馬市八方内に建設を予定していた応急仮設住宅70戸が完成し、2月17日に入居説明会を行いました。2月20日から順次入居しています。

## 浪江町みんなのれんらく帳

全国各地で避難生活を送っている町民同士の絆の維持や連帯

## 町民交流事業

県内交流会は、12月1日に須賀川市、12月2日に猪苗代町、12月3日に本宮市などで「しゃべり場」を開催しました。また定期交流会「集まっ会」を二本松市内で開催し、県内の交流会は全体で約300名が参加され、絆を深めています。

県外交流会は、12月1日に千葉県、12月8日に岩手県などで開催し、130名の方々が参加しました。なかでも、12月24日に東京国際フォーラムで福島県主催による「ふくしま避難者交流会」が盛大に開催され、避難者160名が参加者しました。さらに同時開催された「げんき咲かせよう!ふくしま大交流フェア」では、「ふくしま」を体感できる楽しいイベントが開催され、避難者のみならず多くの都民の方もイベントを満喫しました。

今年度の3・11復興のつどいの開催は、3月16日安達文化

## 教育行政

### 成人式

1月13日、二本松市安達文化ホールで「平成25年浪江町成人式」を開催し、新成人の門出を祝いました。

新成人を代表し、三瓶美穂さん(津島地区)が、「私たちは、自立した大人として未来を見据えながら、一瞬一瞬を大切に生きていきます。」と誓いの言葉を述べ、新成人241名が二十歳の志を胸に力強く羽ばたきました。

### DVD作成

全国に離れ離れになった子どもたち同士の絆やふるさととのつながりを維持する目的で、浪江町内の小・中学校で活動していた当時の思い出の写真集として、各校の写真用小・中学校別に収録したDVDを作成しました。

DVDは静止画ムービー形式で作成し、収録映像時間は各校15分程度のもので、被災当時の児童・生徒全員を対象に、3月中に発送します。